

「リサイクル・プラザJBを見学して」

八潮市 四年 杉本 萌日（すぎもと もに）

私は、八月十日にお母さんとリサイクル・プラザJBを見学に行きました。初めての工場見学だったので決まってから、とても楽しみにしていました。

工場に着くと始めは教室のような場所で、リサイクルについてや、工場の中の事を勉強しました。リサイクルという言葉は、もちろん知っていましたし、学校でも、リサイクルの標語や絵を書いた事もあります。家では、お母さんが、ペットボトルを洗ってつぶしているのを見たり、一緒にスーパ－の回収機に持って行った事もありました。でも、ここでの勉強で私は、リサイクルのほんの一部しか知らなかったのだと思いました。飲み終わった缶やビンを集めればリサイクルではなく、次の資源や物に生まれ変わるためには、とてもたくさんの工程が必要だという事を知りました。次にその工程の一部を見学しました。

ヘルメットをかぶり並んで工場の中へ入りました。工場の中は、大きな機械がたくさんあって、とても暑かったです。そこで働いている人達はこの暑さの中でも危険防止のために長そで長ズボンでした。とても大変な仕事だと思います。いくつもの機械と人の手によって缶達はどんどん姿を変えていきました。

製品ストックヤードの所で説明を聞いている時に、三時の休けいになり、工場で働いている人達が集まって来ました。こんなにたくさんの方が働いていたのかと、とてもおどろきました。最初に勉強した時に教えてもらった、飲み物の容器以外の物があるために、やはり人の目や手が必要なのでしょうか。でも、それを減らしたり、なくしたりする事は私達にも出来るはずです。

飲み終わった缶やビン、ペットボトルをゴミと考えるか、次に生まれかわれる資源と考えるかで、大きなちがいがあると思います。よく国道や高速の高架下を家の車で走っていると、植えこみにたくさんの方の缶やペットボトルが捨ててあります。今までは、ゴミがいっぱいで、きたないなと思っていました。でもこれからは、資源なのにもったいないと思うはずです。みんながそういった気

持ちになるのには、時間もかかるし、おずかしい事でもあると思います。それでも私は、小さな一歩から始めたいと思います。たくさんの資源をくれた地球のために少しずつでも恩がえしが出来ればいいなと思います。こちらでの勉強で、そんな気持ちになれたので、リサイクル・プラザJBに来る事が出来て、本当に良かったと思います。